

『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』 『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』の構築と 中国語母語話者の日本語誤用研究のストラテジー

于 康

1. はじめに

日本国際交流基金の2006年度の調査結果¹⁾によって示されているように、2006年度までに、中国では、日本語教育機関数が1,219、教師数が8,527人、日本語学習者数が483,623人、学校教育以外の日本語学習者を含むとすれば、中国における日本語学習者数は68万人を超えている。その勢いはいまでも劣ることなく、年々増加する傾向にある。まもなく新しい調査の結果が出るが、おそらく2006年度の数字よりは、かなり増加されるだろうと予測される。また、中国語母語話者の留学生が6割以上いる日本の大学が多数あるのも現状である²⁾。

さて、中国の大学で日本語を学ぶ学習者は、4年間で日本語を学び、卒業後、日本語関係の仕事か研究に就き、ハイレベルの日本語の運用力が求められている。しかし、卒業生の日本語の運用能力を調査してみると分かるように³⁾、必ずしも円滑な運用能力を有するわけではない。円滑な運用能力とは、母語の干渉を最小限に抑制し、相手に伝えたい情報やその情報に付加する話し手の気持ちを、相手との関係

1) 三年ごとに調査を行う。新しい調査は現在進行中。詳細は <http://www.jpfbj.cn/Education06.asp> をご参照されたい。

2) 詳細は、独立行政法人日本学生支援機構のHPをご参照されたい。

3) 于研究グループは、2006年から追跡調査を行い、その調査の結果から得たデータである。

をきちんと踏まえながら、日本語母語話者に誤解を与えずに相手に伝え、円滑にコミュニケーションをとるということである。円滑な運用能力がきちんと備わっていない最大の原因としては、二つのことが考えられる。

- ① 日本語教材が殆ど文法項目を軸にして作られている。非日本語環境の中で、語彙教育や使用場面に相応しい語彙と文の選択またその運用の練習に必ずしも計画性があるとは言い難い。従って、文法的に正しい文は作れるが、運用になると、的を射た言い方にはならないことが多く見受けられる。
- ② 母語の干渉が日本語の習得に大いに影響を与えることは認識されているが、母語干渉の詳細やそのメカニズムは未だに解明されていない。従って、使用場面に相応しい語彙や文の選択またその運用の練習は、場当たり的になりがちで、なかなか効率が上がらない。

つまり、母語干渉のプロセスやメカニズムを明らかにしない限り、教材作りや教授法の改善に力を入れようがないのである。以上の現状を改善するためには、中間言語や誤用の研究が必要になってくる。その重要性については、既に共有の認識になっているが、中間言語や誤用の研究は、同じ母語を共有する学習者を対象とするという立場に立ったものがそれほど多くなく、特に学習者の母語を問わずに行っている研究が少なくないのが憂慮すべき現象かと思われる。また、母語干渉という視点からの研究であっても、扱われていた誤用例は膨大なデータから見出してきたものではなく、ケースバイケースのものも目立つ。そのような誤用例の研究からまとめられてきた提案は、有効なものとは考えにくいであろう。

以上の問題点を解決するためには、母語話者を固定させた上で、その母語話者の日本語習得プロセスや誤用の実態を示すコーパスの構築が必要になってくる。膨大なデータがあれば、そのデータから使用実態を明らかにし、その母語話者の日本語使用や誤用の規則性を見出すことが可能になる。その結果を踏まえた教材作りや習得の研究は、よりの的を射たものになるのであろう。

母語話者を中国語母語話者に限定するとすれば、少なくとも2種類のコーパスの構築が必要である。一つは、『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』で

あり、もう一つは、『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』である。『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』とは、性別、学年別、日本語学習年数別、滞日年数別、文章の類型別に中国語母語話者が日本語で作成した文章を集めて作成したコーパスのことある。それに対し、『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』とは、性別、学年別、日本語学習年数別、滞日年数別、文章の類型別の他に、誤用の種類別や正誤文を1つの画面に同時に表示させるコーパスのことである。この2種類のコーパスを構築するために、筆者は、2006年から『日中言語研究と日本語教育web研究会』⁴⁾を立ち上げ、中国語を母語とする日本語学習者の日本語習得について、リサーチや研究を進めてきた。2010年度は、「中国語母語話者日本語コーパスの構築及び日本語習得のプロセスと日本語誤用のメカニズムに関する総合研究」というプロジェクト⁵⁾を立ち上げ、中国北京第二外国語学院日本語学院の協力のもと、本格的に『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』と『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』の構築に着手したのである。

以下では、この2種類のコーパスを中心に紹介した上で、サンプルとして、中国語母語話者によく見られるテンス・アスペクトの誤用例を取り上げ、コーパスと日本語教育研究との接点やコーパスの有用性について考えてみたい。

2. 『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』

『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』は、総合型のコーパスである。総合型とは、誤用についてのタグを付けず、未修正のままのデータをコーパス化したものである。データの抽出や誤用の研究は、それぞれの研究者がそれぞれの課題に基づき行うことになっている。

日本語習得のプロセスを観察するという視点から、性別、学年、日本語学習年数、

4) 現在登録の会員数は217名（入会・退会自由）。

5) 関西学院大学から『2010年度教育研究活性化資金・アジアを研究拠点とする研究者との国際共同研究』として、研究助成金をもらっている。ここにて謝意を表したい。

滞日年数、文章の類型というタグを付けている。学年は、学部1年生、2年生、3年生、4年生、M1、M2、M3⁶⁾ というように、学年毎にタグを付けている。学年だけでは、学習者の学習歴を正確に表すものにならない場合もあるので、学年の次に、日本語学習年数のタグも付けている。また、日本での留学経験をもつ学習者と持たない学習者とでは、熟練度が異なる可能性もあることから、滞日年数というタグを設けている。最後には、文体のジャンル毎にタグを付けている。

検索用のソフトは、国立国語研究所が開発し無料公開している「ひまわり」を使用している。検索にあたって、「学習歴」また「中国1年生」「学習歴2年」のように、一つか二つのタグを限定して検索することができるが、「女」「中国2年生」「学習歴4年」「滞日0年」「メール」のように、複数のキーワードを含む AND 検索や OR 検索のような複雑な検索はできない。これは、限られた資金ではなかなかそこまでできないという事情があるからである。しかし、複雑な検索ができなくても、基礎研究のためのデータの抽出は、無理なくできるので、これらのコーパスを使いこなせば、十分に役に立つものになるであろう。データテーブルは、図1の通りである。

図1は、検索条件を絞って、中国語母語話者の「～と思う」の使用実態を検索したものである。「タイトル」には、学習者の各種の情報タグが示されている。「フィルタ」の機能を使えば、タグの内容を絞って検索することができる。

図1で示されているように、検索の結果、207例がヒットした。人称制限、テンス・アスペクト、モダリティ表現との関わりや、“我（们）认为”“我（们）觉得”“我（们）想”などの中国語の干渉がないかなどといった視点から、中国語母語話者の「～と思う」の使用実態、つまり、使用の偏り、日本語母語話者なら普通使わないが、中国語母語話者によく見られる余剰の用法、「～と思った」「～と思っている」「～と思っていた」を使うべきところに「～と思う」を使ってしまう誤用の実態などを明らか

6) 北京第二外国語学院の日語学院は、学部生の在籍数が500名以上、院生の在籍数が120名以上であり、修士課程は3年である。データは主に日語学院の学生や院生から採集してきたものである。

于：『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』



図 1

にすることができるだけでなく、その中から誤用の規則性を見出すこともできるであろう⁷⁾。

このコーパスはまだ作成途中であるが、搭載しているデータがすでに 800 万字になっているので、使用は可能である。ただし、以下のコーパスも含め、公開の法的手続きは未完了なので、現在は、プロジェクトチームのメンバーや協力者のみ使用が可能となっている。

3. 『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』

『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』は、総合型のコーパスであるため、誤用については、使用者が各自で纏めて分析し、それぞれの立場で研究を進めていかなければならない。従って、格助詞の誤用、動詞の誤用、テンス・アスペ

7) 本稿は、誤用研究のためのものではないので、詳細については、別稿にて掘り下げる予定である。

クトの誤用、助動詞の誤用などのように、テーマ毎における誤用の研究にはすこし不向きで、手間がかかる。

誤用研究は、膨大なデータから見出した日本語学習者の誤用の規則性を踏まえたものなら、より高い信憑性を有することになり、その成果が現場の日本語教育に直結する可能性も高い。換言すれば、その誤用が中国語母語話者によく見られる誤用の典型例でなければ、研究の結果が個別の誤用者には役に立つとしても、一般化ができないため、有効的なものにはならないということである。

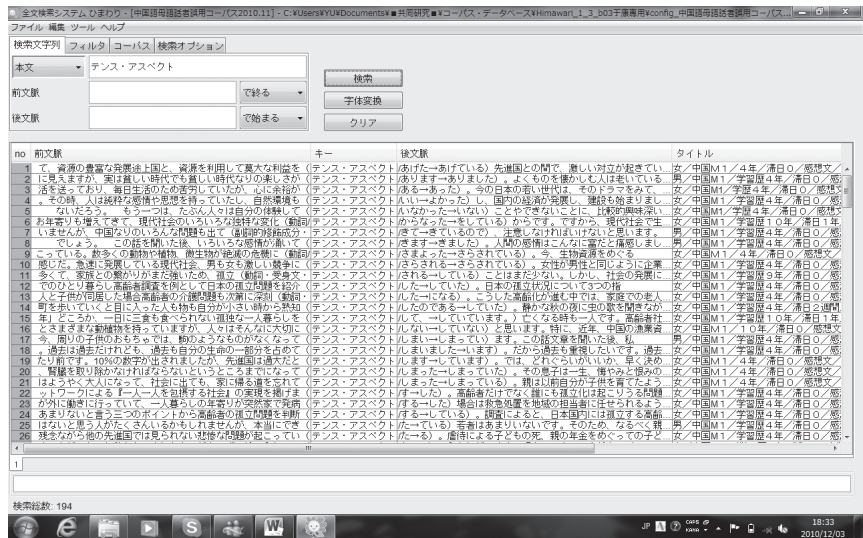
そのようなことから、誤用の規則性を見出すためには、『日本語誤用コーパス』の構築が必要になってくる。ただし、ここで強調したいのは、母語を問わない日本語誤用コーパスは、結局、母語干渉を無視することになるため、そこから見出した結論がその誤用例を作った日本語学習者には有用であるとしても、それと異なる母語を持つ日本語学習者には通用しない。そもそも誤用研究の結果を、母語を問わずすべての日本語学習者に適用させようとする発想自体が間違っていると言っても過言ではないであろう。

従って、誤用コーパスを作るなら、母語限定のコーパスを作らなければならない。『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』は、まさにその名の通り、母語を中国語母語話者に限定する日本語学習者の誤用コーパスである。潤沢な資金があれば、外注をして、よりハイレベルのコーパスが作られるが、現段階では、限られた資金を最大限に生かし、なおかつ特別な技術が不要で、どのようなパソコンでも、だれでもいつでも取りかかることができるコーパスを作らなければならない。現在作っている『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』は、手作業のものであるが、以下のサンプル研究で示しているように、現状のままでも研究ができるので、十分に有効性をもつものであると思われる。

タグについては、性別、学年別、日本語学習年数別、滞日年数別、文章の類型別の他に、誤用の種類別を設け、正誤例も同時に表示するようにしている。例えば、図2は、作成中のコーパスを使って、検索条件を絞った中国語母語話者のテンス・アスペクト誤用例を検索したものである。「タイトル」には、学習者の情報タグ、

于：『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』

「キー」には、誤用のタグを付けている。「後文脈」には、「あげた→あげている」のように、誤用と正しい用法を「→」でつなげて示している。「→」の前が誤用で、その後が正しい用法である。このデータは、テキストファイルとして保存（「ファイル」－「名前を付けて保存」）したあと、Excelで開き、フィルタ機能を使うことで、タグの並び替えも可能である。



no	前文脈	キー	後文脈	タイトル
1	資源の豊富な資源国と、資源を利用して莫大な利益を	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
2	に見えますが、実は新しい時代でも古い時代からの素人	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
3	活を送っており、毎日生活のため苦しんでいる。心に余裕が	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
4	。その時、人は純粋な感情や思想を持っていて、自然環境も	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
5	。ないから、もう一つはたまたまの偶然で残っている	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
6	おきりも増えるまで、現代社会のいろいろな独特な文化(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
7	いませんが、中国などのいろいろな問題も出て、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
8	でしよう。この話を聞いた後、いろいろな動物が(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
9	こっている。動物の動物や植物、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
10	感じに、急速に発展している現代社会、男も女も新しい教育に	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
11	多くて、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
12	でのひとり暮らし(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
13	人の子供が同じような場合(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
14	町を歩いていると、いろいろな物や自分が知っている動物が(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
15	年と、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
16	とさまざまな動物を持っています。人々もそれなりに大切に	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
17	今、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
18	。動物は過去だけでなく、過去も自分の生命の一部を占めて	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
19	たり前です。10%の動物は出たけれど、先進国は過去と	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
20	。動物を飼育する(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
21	は、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
22	ッパークによる「人々を包摂する社会」の実現を目指して	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
23	が、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
24	。あまりない(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
25	はい、(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。
26	。先進国から他の先進国では見られない(動物)	(デンス・アスペクト)	(あげた→あげている)	先進国との間で、驚しい対立が起きている。

図 2

このコーパスで示される正しい文は、日本語母語話者によって判断が異なるし、答えも必ずしも一つではないことや、添削した文が作者の意思を十分に表現しきれないこともあることは、十分承知している。しかし、いまの条件では、それらすべてを含んだ完璧なものを構築することはなかなか難しい。従って、使用者にはその点をよくご理解いただく上で使っていただきたい。

4. サンプル研究：中国語母語話者によく見られるテンス・アスペクトの誤用

作成途中の『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』は、今の時点で、ファイルの総数が3,494件、サイズが13.6MBである。日本語学習歴は4年、5年、6年、10年の学部生や院生が中心である⁸⁾が、4年と10年の学習者が多く、文章のジャンルは、感想文と小論文に偏る。

コーパスを使って、中国語母語話者の誤用実態を調べてみたら、テンス・アスペクトの誤用が最も目立つことがわかった。これは、現場の実態と一致している。誤用の原因については、これまでの研究では、対照研究を含め、中国語はテンス・アスペクトを表す文法的マーカが発達していないため、テンス・アスペクトを表す際に無標の場合が多いのに対し、日本語はテンス・アスペクトを表す文法的マーカが発達しており、なおかつマーカの意味機能も多種多様であることに起因するとされるものが殆どである。

(1) したがって、日本のような先進国は国の福祉が良いから、高齢化社会が進んでも今の若い人は大きな責任を（[誤] 持っていない→[正] 持たなく）もいといわれているが、（女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文）

(2) 先進技術と豊かな知識を利用して、生物資源の価値を発掘すると数えきれない利益を（[誤] もたらしている→[正] もたらす）ことができる。（女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文）

しかし、用例の(1)と(2)のように、中国語で表現するなら無標でなければならないにもかかわらず、中国語母語話者の日本語学習者は、「ている」を使っている。これは母語の負の転移に帰することができないので、中国語母語話者に見られる日本語のテンス・アスペクトの誤用は、単なる文法のミスを除き、母語の干渉だけにその起因を求めるのは無理があるようである。

8) 大学や大学院に進学するまでにすでに日本語を学んでいる学習者もいるので、日本語学習歴と学年とは必ずしも一致しない。

誤用の全体像を明らかにするために、コーパスの調査が必要不可欠になる。以下では、限られたデータを使い、中国語母語話者のテンス・アスペクトの誤用について考察し、コーパスの有用性を考えてみたい。

4.1 誤用の分布

3,494 件のデータからテンス・アスペクトの誤用例を検索してみたら、187 例がヒットした。それらの誤用例を、「X→る⁹⁾」、「X→た」、「X→ている」、「X→ていた」のように分類し、その結果をまとめてみると、次の図3のようになる。「→」前のXは、誤用の種類を問わない誤用の総称であり、「→」後の「る」、「た」、「ている」、「ていた」は、正しい言い方である。

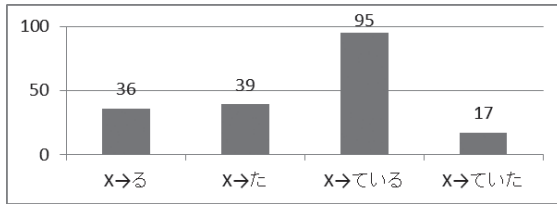


図3

図3に示されているように、テンス・アスペクトにおける中国語母語話者の誤用は、「Vている¹⁰⁾」を使うべきところに他の表現が使われていた誤用が最も多く、その次が「Vた」、「Vる」を使うべきところに他の表現が使われていた誤用になる。つまり、「Vている」の意味機能やその使用場面の選択が中国語母語話者にとって習得の難点だと言えそうである。「X」の内訳を精査すると、次の図4～図8になる。

「X→る」においては、「た→る」、「ている→る」の誤用に集中している。つまり、「た」「ている」と「る」との意味機能や使用場面の選択に関する理解が混乱してい

9) この「る」は、非「ている」形、非「た」形、非「ていた」形を意味し、いわゆる現在形で終止するものの総称のことである。つまり「書く」「歌う」「飲む」「美しい」「学生だ」などのように、「く」「う」「む」「い」「だ」などで終止するものを意味するのである。

10) このVは、動詞だけではなく、形容詞（ナ形容詞も含む）や「だった」のようなものも含む。

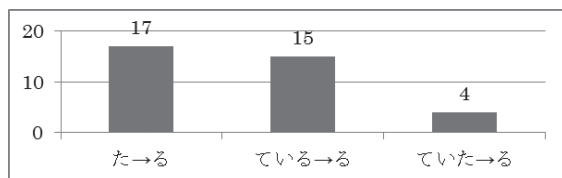


図4 X→る

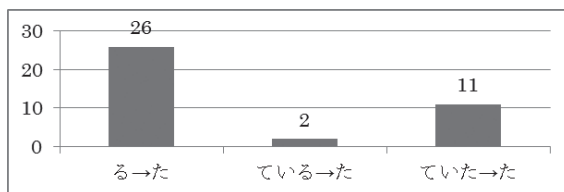


図5 X→た

るため、それらを区別することができず、混同して使っているのである。

「X→た」においては、「る→た」の誤用が顕著であり、その次が「ていた→た」の誤用である。図4と比較すれば分かるように、「た」を使うべきところに「る」が使われた誤用の方が「る」を使うべきところに「た」が使われた誤用より多い。つまり、「た」の意味機能や使用場面の選択については、中国語母語話者がなかなか理解できないところがあるのである。

「X→ている」においては、「る→ている」の誤用が最も多く、その次が「た→ている」の誤用である。図4、図5と比較してわかるように、「ている→る」(15例)より、「る→ている」(64例)の誤用の方が多く、「ている→た」(2例)より、「た→ている」(23例)の方が多い。つまり、「ている」を使わなければならない場面の選択が中国語母語話者はなかなかできないのである。

「X→ていた」においては、全体的に誤用が少ないのが特徴的である。強いて言えば、「た→ていた」の選択に混乱が見られたという点であろう。

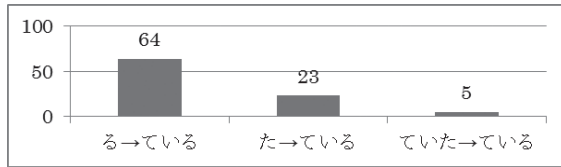


図 6 X → ている (1)

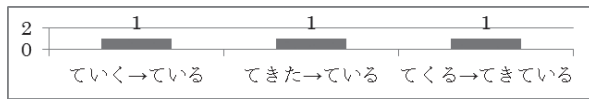


図 7 X → ている (2)

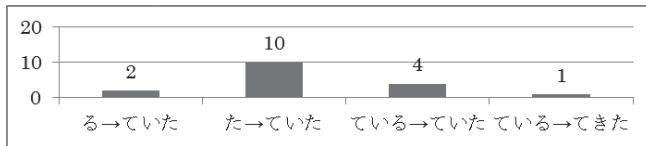


図 8 X → ていた

4.2 学習歴別の誤用分布

以上のことを学習歴別¹¹⁾に纏めてみると、図 9、図 10、図 11、図 12 になる。

「た→る」、「ている→る」の誤用は、学習歴が 4 年の学習者にはよく見られるが、学習時間の経過により、減少する可能性がありそうである。

「る→た」と「ていた→た」の誤用も、図 9 と同様であるように、学習歴が 4 年の学習者に集中し、学習時間の経過によって、減少する可能性があると考えられる。

しかし、図 9 と図 10 に対し、図 11 のように、「る→ている」の誤用は、学習歴が 4 年の学習者によく見られるが、学習時間の経過によってしばらくは減少されるものの、10 年のときは、また増える現象が見られる。

「X → ていた」の誤用も図 9 と図 10 と同様な現象になる。

11) 現時点のデータの性格により、ここの学習歴の分布は必ずしも誤用実態を正確に捉えているわけではない。

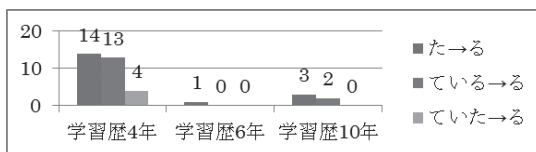


図9 学習歴別における「X→る」の誤用分布

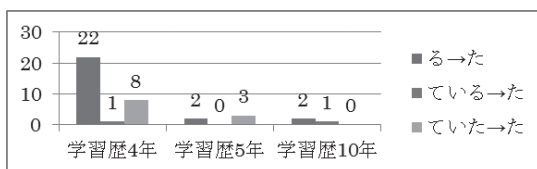


図10 学習歴別における「X→た」の誤用分布

学習歴が1年、2年、3年、7年、8年などのデータはまだ未搭載であるが、これから、それらの調査の結果と併せて考察すれば、より正確な学習歴別の誤用分布や習得プロセスを明らかにすることができるであろう。

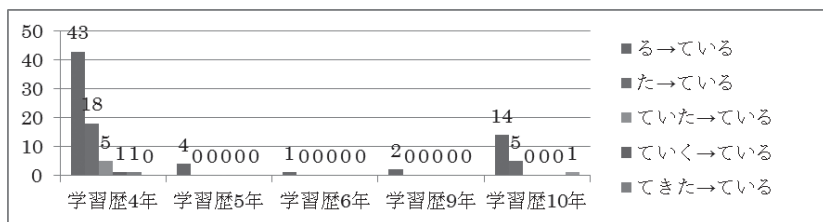


図11 学習歴別における「X→ている」の誤用分布

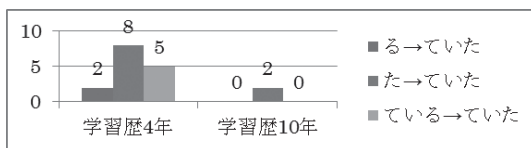


図12 学習歴別における「X→ていた」の誤用分布

4.3 母語の負の転移による誤用の下位分類と「ねじれ誤用」について

以上の調査から、中国語母語話者の日本語学習者は、学習歴が4年以下の場合、「る→た」や「る→ている」については、意味的な相違や使用場面の選択を正確に理解し得ていないので、混同現象が生じていると考えられる。その具体的な原因は、三つ考えられる。

- ① 「Vた」と「Vている」の使用場面の選択に関する日本語母語話者の考え方がまだ十分に理解されていないことに起因するものである。
- ② 母語の負の転移つまり母語干渉に起因するものである。
- ③ 「ねじれ誤用」に起因するものである。

「ねじれ誤用」とは、直接母語干渉に起因するものではなく、中国語母語話者が日本語の時間表現を学んだ後、その時間の捉え方を誤解して生じた時間の捉え方の誤用のことである。

まず、母語干渉に起因する誤用を見てみよう。

結果・状態の継続を表す場合は、日本語なら普通「ている」との共起が求められるが、中国語には、その「ている」と一致する文法のマーカがない。中国語と日本語とでは、そもそも結果・状態の継続を表さなければならない場面の選択に関する認識が異なっている。例えば、

- (3) 親の面倒を見る暇がない子どもたちは親を老人ホームに入居させた。自分は広い家や車を(持つ→持っている)にもかかわらず、親と一緒に暮らししたら生活や仕事などに不便だと考えているからなのだ。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文)

○自己有宽敞的房子和车

×自己有着宽敞的房子和车

- (4) 草食男女の人数が年々増えている傾向あるそうだ。これは日本経済の発展に(関わる→関わっている)。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文)

○这与日本经济的发展有关

×这与日本经济的发展有关着（了）

- （5）周知の通り、人類社会の発展の影響で、地球の環境が悪化しつつある。今、4時間ごとに一種の生物が（絶滅する→絶滅している）といわれるぐらい、地球上の生物は厳しい状況に直面している。（女／中国M1／学習歴10年／滞日1年／感想文）

○现在每隔4个小时就会有一种生物灭绝

×现在每隔4个小时就会有一种生物正在灭绝

- （6）現代社会に、そのような人はだんだん少なく（なる→なっている）に違いない。（女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文）

○这样的人一定会越来越少

×这样的人一定会正越来越少

- （7）今日、私たちの住む世界は、常に自然災害を（受ける→受けている）。（女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文）

○今天我们所居住的这个世界经常会遭受到自然灾害

×今天我们所居住的这个世界经常会遭受着自然灾害

- （8）また、今のところ途上国と先進国は生物資源の利益問題について互いに意見を譲らない状態に（陥ります→陥っています）。（男／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文）

○陷入了互不让步的状态

×正在陷入互不让步的状态

用例（3）～（8）を母語干渉に起因する誤用と捉えてもよいとすれば、明らかに母語の負の転移のレベルが異なる。それを纏めてみると、次のようになる。

①中国語のテンス・アスペクトの無標表現の負の転移に起因する誤用

②中国語の結果補語の用法の負の転移に起因する誤用

③中国語の“了”の解釈に起因する誤用

用例（3）～（6）は、中国語のテンス・アスペクトの無標表現の負の転移に起因する誤用である。日本語では、「持っている」、「関わっている」、「絶滅している」、「少

なくなっている」のように、結果・状態の継続を表す場合は、「ている」と共起する場合が多い。一方、それに対応する中国語は、(3)“自己有宽敞的房子和车”、(4)“这与日本经济的发展有关”、(5)“就会有一种生物灭绝”、(6)“这样的人一定会越来越少”のように、テンス・アスペクトが無標である。その中に、状態動詞も含まれている。つまり、“有”、“有关”、“灭绝”、“越来越少”だけでも、日本語の「持っている」、「関わっている」、「絶滅している」、「少なくなっている」といった結果・状態の継続を表す意味に対応しているので、その無標の表現に馴染んでいる中国語母語話者の日本語学習者は、母語の無標表現の負の転移により、「Vている」を使うべきところに「Vる」を使ってしまったことが考えられる。

しかし、学習者が結果・状態の継続を表すなら有標でなければならないことを意識しすぎると、「Vている」の使用過剰になる。例えば、

- (9) 大都市で、多くの人は仕事で忙しくて、隣に住んでいる人を(知っていない→知らない)し、子供や親の面倒を見ることができない。(女／中国 M1／学習歴 4 年／滞日 0 年／感想文)

○不知道邻居是谁

×不知道着邻居是谁

- (10) レキシコンレベルにおけるそれ以外の自者指示・他者指示に当てはまるかどうか検討の余地は(残っている→残る)。(女／中国 D 3／学習歴 10 年／滞日 0／小論文)

○还留有商讨的余地

×还留着商讨的余地

(9) と (10) は、「Vている」の使用過剰であり、日本語の「結果・状態の継続」というアスペクトの概念を意識しすぎて、日本語でも無標で表現すべきなのに、「Vている」を使ってしまう誤用である。この現象を「ねじれ誤用」と呼び、詳細については以下で論じる。「知らない」、「残る」だけで中国語母語話者が考えている「知っている」、「残っている」の意味を表すことができることについては、中国語母語話者にはなかなか理解できない。このような誤用は、特に「思っている→思う」、「考

えている→考える」のように、思考動詞にはよく見られる。例えば、

(11) 一方、途上国が取得した利益を使用して、研究の新しい技術を得ることも非常に大事だと（思っている→思う）。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文)

(12) 答えはコミュニケーションを深めることだ。家族の絆を強める必要があると（考えている→考える）。家族の責任なしに、問題は解決しない。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文)

さて、用例(7)は、中国語の結果補語の用法の負の転移に起因する誤用である。結果補語とは、動詞や形容詞に後置され、結果や状態を表す文の構成成分のことである。結果や状態の継続を表す場合、「门口停着一辆车」のように、中国語では“着”で表すことができるが、すべての動詞が“着”と共起して結果や状態の継続を表すことができるというわけではない。むしろ「結果補語」だけが「結果補語＋了」を使って結果や状態の継続を表すのが普通であろう。(7)“经常会遭受到自然灾害”における動詞“遭受”の後の“到”は、結果補語である。

中国語の結果補語は日本語の「Vている」に通底する意味も有するが、そこまで意識している学習者は非常に少ない。「動詞＋結果補語」は、“着”などのマーカと共起しないことから、学習者が「Vている」を使わずに、無意識的に「Vる」を使ってしまうといったような結果補語の負の転移による誤用が生まれてくると考えられる。

用例(8)は中国語の“了”の解釈に起因する誤用である。結果・状態の継続に関わる表現には、無標、結果補語の他に、もう一つテンス・アスペクトのマーカの“了”がある。“了”は、時間軸上のある時点に生じた動作や事柄を表すと同時に、時間的な局面にも関わっているので、テンス専用マーカではない。“下雪了”や“他现在是在博导了”のように、変化後の状態の継続を表すこともある。また、上にも述べたように、「動詞＋結果補語＋了」になると、結果や状態の継続を表す可能性が上がる。しかし、学習者には、“了”なら「た」に相当すると思っている人が圧倒的に多い。“了”も「ている」に相当する場合もあると認識している学習者がいる

としても、どのような場面なら、“了”が「ている」に相当するのかを押さえている人が皆無と言っているほど非常に少ない。従って、(8)“陷入了互不让步的状态”における“了”が変化後の状態の継続を表すこととしてではなく、事柄が生じたこととして捉えがちである。

次に、「ねじれ誤用」について見てみよう。

中国語母語話者のテンス・アスペクトの誤用は、中国語の干渉によるものだと言われがちであるが、実際は、必ずしもすべて母語干渉からきたものではない。例えば、

- (13) しかし、人間がただ自分の利益を求めるばかりだと、生物資源が(無くなった→無くなる)日も今から遠くないと思う。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0年／感想文)

○我认为这离生物资源枯竭之日将不会太远。

×我认为这离生物资源枯竭(耗尽、用尽)了之日将不会太远。

- (14) 多くの高齢者が「安享晚年」どころか、一日に三食も食べられない孤独な一人暮らしをしています。亡く(なった→なる)時も一人です。(女／中国M1／学習歴10年／滞日1年／感想文)

○离开人世的时候也是一个人。

×离开人世(死、去世)了的时候也是一个人。

- (15) 必要な資源が入手できなくなり、もともと資源の豊富な途上国も利益を得られない。それより、最も損害を(受けた→受ける)のは人類である。(女／中国M1／学習歴10年／滞日0年／感想文)

○受到損害的还是人类本身。

×受到损害了的还是人类本身。

中国語においては、文法のマーカーを駆使して、事柄の生起や現在との時間的關係を表す用法が非常に限られている。その代わりに、時間詞や文脈を用いて表すのが殆どである。“了”“着”“过”や“正”“正在”“在”といった時間表現に関わるマーカーがあるが、時間を表す際に、一部の動詞や形容詞としか共起しないという制約を受けている。例えば、“了”は、事柄の生起時間が現時点以前のことを表すことが

できるが、生起時間が現時点以前の事柄なら、いずれも“了”で表すことができるというわけではない。一方、日本語の「た」は、テンス・アスペクトを表す場合は、その用法は中国語の“了”より頗る広い。

用例の(13)～(15)は、中国語で表現するならそもそも“了”と共起しないし、日本語で表現する場合であっても「た」との共起が必要ではない。しかし、誤用例には「た」が使われている(このような誤用は全体の8割以上占める)。従って、日本語の誤用例に使われていた「た」は、中国語の負の転移に起因するものではなく、テンス・アスペクトが無標である学習者の母語の干渉を回避し、日本語的な時間の捉え方で表現しようとすることから生じてくる「ねじれ誤用」と考えたい。つまり、用例の(13)～(15)においては、学習者は、既然の事態なら通常、「た」で表現しなければならないと学習しているため、事柄が既然の事態だと学習者が判断した場合は、「た」を選択することになるが、その既然事態に関する理解や判断が間違っていたなら、選択ミスが生じ、誤用になるのである。

5. これからの課題

以上述べてきたように、『中国語母語話者の日本語習得プロセスコーパス』と『中国語母語話者の日本語誤用コーパス』の構築は、中国語母語話者の日本語習得のプロセスを明らかにするために必要不可欠のものだけではなく、中国語母語話者の日本語の誤用メカニズムを解明するためにも必要不可欠のものであることが明らかになった。また、この二つのコーパスを使いこなせば、ケースバイケースの研究の不備を改善し、膨大なデータから誤用のパターンを明らかにし、その誤用のパターンから中国語母語話者の誤用のメカニズムを明らかにすることに寄与できる有用でかつ強力な武器になると考えられる。

中国語母語話者の誤用には様々なものが見られる。その様々な誤用の中には、単なる文法知識の欠如や単純なミスなどのような根幹に関わらない誤用も含まれる。非根幹の現象を濾過し、根幹に関わる誤用だけに絞り、誤用の原因について、ケー

スバイケースといった個別の研究ではなく、数多くの誤用例からパターン化されたデータを中心に典型性を有する規則性を見出し、日本語教育現場に還元できる一般化を求めなければならない。その目的を達成するためには、より使いやすいコーパスが求められるのであろう。これからは、コーパスの充実を目指して、試行錯誤しながら目標に近付けるように努力していきたい。

参考文献

- 王学群 2007 『中国語の“V着”に関する研究』 白帝社
- 加納光・平井勝利 1995 現代中国語の持続相、進行相を表す“V着～”と“在V～”の使い分け、『四日市大学論集』7(2)
- 白畑知彦・若林茂則・村野井仁 2010 『詳説 第二言語習得研究—理論から研究法まで』 研究社
- 任鷹 2000 静态存在句中“V了”等于“V着”现象解析,《世界汉语教学》第1期
- 日中対照言語学会(編集) 2002 『日本語と中国語のアスペクト』 白帝社
- 彭飛 2006 中国語と日本語の対照研究が抱える諸問題(6) 日本語の「動詞+テイル」構文と中国語の【“在”+動詞】【動詞+“着”】構文との相違及び【“在”+動詞】構文の基本用法をめぐって,『京都外国語大学研究論叢』67
- 陆俭明 1993 “V来了”试析,《现代汉语语法论》商务印书馆
- 劉綺紋 2006 『中国語のアスペクトとモダリティ』 大阪大学出版会
- 梁紅 1999 中国語の結果相(resultative)とパーフェクト(perfect) —「互換可能」な“V着”と“V了”を中心に,『中国語学』246